

木犀会報の発送を行いました！

去る３１日、宮崎市西地区交流センターにおいて、第１１３号「木犀会報」の発送作業を行いました。本部理事１４名で、終身会員と各学校の会員およそ５０００名分への配作業を行いました。



第１１３号の会報から、年１回の発行になったため、次のことを配慮しています。

- (1) ページ数を増やす
- (2) 一部カラー写真を入れる
- (3) 学生の活動状況を紹介する
- (4) 「報告」的な紙面も作る

- ・ 前年度の「新霊合祀慰霊祭」「母校創立祝賀同窓会」の写真掲載

詳細は、会報１１３号を御覧下さい。

(会長のお言葉と慰霊祭等の誌面は後載しています。)

その後、理事会を開き、次のことを協議しました。

【 理事会の様子 】

(附属小・中学校の校長先生も入っていただきました)



(1) 平成26年度新霊合祀慰霊祭の計画

宮崎師範学校 宮崎大学学芸・教育・教育文化学部

平成26年度 新霊合祀・慰霊祭

会場受付／10:00～ 式典／11:00～ 偲ぶ会／12:00～

平成25年9月1日以降お亡くなりになった全ての卒業生（以前の未合祀者を含む）を（14面上記参照）、宮崎師範・宮大学芸・教育学部跡地（木犀会館横）の招魂碑に、遺族・宮大学長・学部長等来賓を迎え合祀します。

合祀者の同期生の方々をはじめ、多数のご参列をお待ちしています。

会費 2,000円 偲ぶ会（会食）経費含む
参列申込み（10月31日（金）まで）

【退職会員】各卒業年次代表者が木犀会事務局へ直接連絡して下さい。
【現職会員】各地区評議員の校長先生（2面参照）か木犀会事務局へ直接連絡して下さい。

木犀会事務局 宮崎市船塚1-1-1 木犀会館 TEL&FAX (0985) 25-2051

期日 平成26年11月9日（日）

会場 宮崎大学教育文化学部附属小学校体育館
宮崎市花殿町7-49



【 年々参列者が少なくなってきました。ぜひ御参列をお願いします！ 】

(2) 広報活動のあり方

- 会報第113号の編集に当たって、反省と今後の方向
- HPオープンの経過報告と反省

(3) 学部との連絡協議会について

(4) 創立130周年祝賀同窓会の大綱について

(5) その他

- ① ホームカミングデイの案内（後載）
- ② 宮大同窓会連合会だより第4号

【 同窓会連合会だより Vol.4 】

木犀会副会長石塚敦子先生（昭和25年卒）の近況が報告されていました。

傘寿を過ぎて、御健康で本会の運営に携わっていただいていることに心から感謝いたします。

石塚敦子さん（昭和25年宮崎師範学校卒業）

早いもので傘寿を過ぎて3年になりました。元気な日々感謝しながら、あれもこれも、やりたい、しなければと欲張り婆さんに変身して駆け回っております。中でもターゲットバードゴルフと言うシニアスポーツに嵌まっていて、今年もまた、宮崎



ねんりんピックに参加しました。全国大会への予選会でもありましたが、「参加することに意義有り」で、同じスポーツを楽しむ県内の仲間が集う親睦と交流の1日になりました。来年もまた元気に参加できることを願って、練習を楽しみたいと思っております。

③ 宮大330事業について

木犀会報

小川 溪水 筆

宮崎師範・宮大学芸・
教育・教育文化学部
同窓会会報

第 113 号

発行 日
平成 26 年 9 月 1 日

編集 発行人
緒 方 明 夫
宮崎市船塚1-1-1
木犀会館内
木犀会事務局

TEL&FAX 0985-25-2051
<http://www.miyazaki-mokuseikai.jp/>

印刷 所
宮崎県教育会館印刷部



母校創立 百三十周年を迎えて

木犀会会長 緒方 明夫

一八八四年十一月に設立され、その翌年二月に開校された宮崎県尋常師範学校を母校とし、「立つ年月ともろとも、耐えぬ栄えを祈りこそすれ」と歌い祝賀し、継承されてきた母校創立の記念日が、今年で第百三十周年を迎えることになりました。

一世紀と四半世紀に余りある長き歳月に亘り、その創立を記念・祝賀し、母校の発展に営々と力を注いで来られた恩師並びに先輩諸氏に、改めて心から敬意を表します。

特に、明治、大正の教育の近代化や昭和の世界大戦後の教育の民主化など、時代の幾多の試練・変遷を経ながらも、常に県教育界の中心となり、その振興に心血を注がれた先輩諸氏の教育功績は、今尚燦然と輝き、私たち同窓会木犀会の大きな誇りとするところであります。

そこで、この創立百三十周年に当たり、大戦後の激変する社会の教育要請に対応し、学部の組織・教育の整備・充実を推進してきた母校の変遷を、ここで、改めて大まかに見る

ことにします。

昭和二十四年五月、新制宮崎大学の中で教員養成の中核を担うて学芸学部が発足。
昭和四十一年四月、すべての学生が教員免許取得を必須とし、教員養成に特化して教育学部と改称。

昭和六十三年九月、大学の統合移転に伴い、創設以来の船塚キャンパスから学園木花台キャンパスに移転。

平成十一年四月、少子化による教員の採用減の影響を受けて、多様な分野に進出する人材養成のゼロ免課程を大幅に設置し、教育文化学部と改称。

平成十六年四月、法人化された国立大学法人宮崎大学の教育文化学部として新生。

このように、時代の厳しい要請に変革されてきた教育文化学部は、今また、グローバルに激しく進展する社会の変化に対応すべく、改めて学部教育の使命を確立し、その使命の具現を担う同窓会と連携した学部教

育の改革に、総力を挙げて取り組んでいると報告されています。

この母校の飽くなく教育改革に呼応して、私達も木犀会の現況を踏まえながら、百三十周年を節目として述べてみたいと思います。

第一に、今抱える木犀会の最大の課題は、組織の整備・拡充と健全な財政の確立であります。この課題について、まず、学生を木犀会の正会員と位置づけ、組織を準会員、正会員、終身会員と体系づけて、拡充しました。さらに、本年度の入学生から入学時に終身会費を徴収し、財政確立の基盤を作りました。

そこで、この整備されました基盤を礎に、どのような木犀会をつくりあげるか、このことが、これからの木犀会の新たなそして最大の課題であります。中でも、学

生が入学時から木犀会の会員としての自覚を持ち、木犀会との絆を強め、誇りをもって、活力に溢れた木犀会づくり、積極的な参加する、そのような学生の意識を高揚する木犀会の環境づくりが、これからの最大の課題であります。

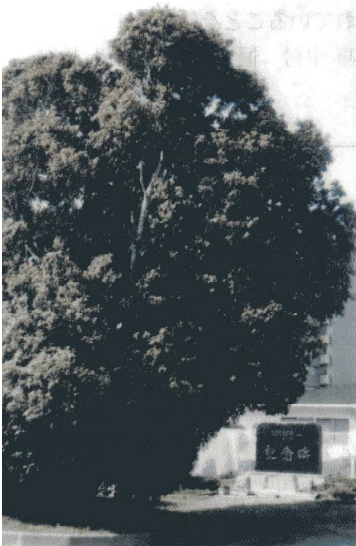
第二に、木犀会の企画・運営に当たるのは、実質

的に終身会員であります。しかし、近年の終身会への新加入者は極端に減少し、このままでは、木犀会活動の継承が危惧されます。また、この組織の充実には、会員の親睦と互助の絆の強さを広く社会に示す指標でもあります。この意味も含めて、終身会組織の拡充は、常に努力されるべき大きな課題であります。

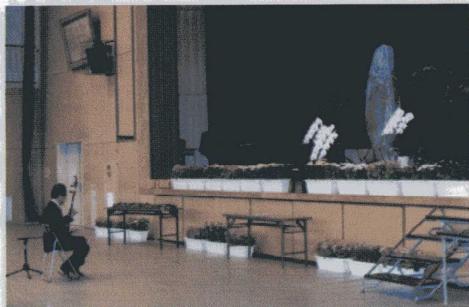
第三に、準会員、正会員、終身会員と幅広い会員の組織が、相互の親睦を図り、さらに母校の発展に寄与する、何より広報活動の充実が基本であります。

ここ数年、紙媒体の会報と電子媒体のホームページでそれぞれの特性を活かしながら、広報の充実に努力してきましたが、さらに、日々進展する情報社会にも対応しながら、会員のニーズに添った広報の在り方は、絶えず検討されるべき課題であります。

以上、母校創立百三十周年を迎えて、木犀会の現況とこれからの課題について述べましたが、これらの課題に会員一体となって取り組み、活力ある同窓会木犀会に強化することのご理解とご協力をお願いいたします。



平成25年度 新霊合祀慰霊祭



送魂追悼の調べ(森浩司氏)



遺族代表追悼の詞(緒方吉邦氏)



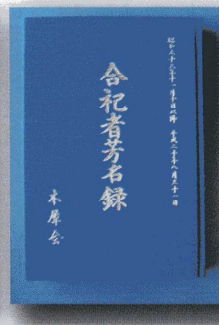
会長慰霊の詞



献花(遺族)



招魂碑 左~男子・右~女子



名簿

母校創立129周年記念祝賀式

期 日：平成26年3月2日
会 場：JA・AZM大ホール

会長式辞



創立記念の歌の斉唱



祝賀宴(懇親会)



「んまっポーズ」(卒業生)コンテンポラリーダンス



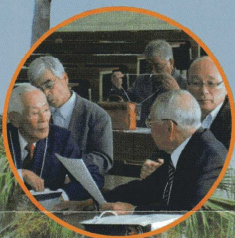
宮大学生のチアダンス

第4回 宮崎大学 ホームカミングディ

～卒業生の集い～

「ホームカミングディ」とは卒業生の皆様に「母校宮崎大学」に集い、母校の近況に触れ、懐かしい恩師や学友との交流・親睦を深めていただき、相互の発展と連携につなげていくために、大学が卒業生の皆様をお招きするものです。

平成**26**年**11**月**16**日(日)
宮崎大学木花キャンパス



学長挨拶



菅沼 龍夫

宮崎大学・宮崎医科大学卒業生の皆様、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本年も第4回となる宮崎大学ホームカミングディを宮崎大学同窓会連合会の皆様とともに開催できますことを心から感謝申し上げます。本年、2014年は教育文化学部が130周年、医学部が40周年、工学部が70周年、そして農学部が90周年の節目となることから、「宮崎大学創立330記念事業」を実施しています。お陰様で、教職員、学生、ならびに同窓会連合会の皆様を始め、「創立330記念事業支援の会」の皆様から多大なご厚志を賜り、「宮崎大学創立330記念交流会館」を建築することができました。創立330記念交流会館は宮崎県産のスギ材等多用したユニークな木造建築物です。新築されたばかりの創立330記念交流会館にて、卒業生の皆様をお待ち申し上げております。

ホームカミングディを通して、皆様が旧交を温められ、新たな絆を深められることを心から期待しております。

当日のスケジュール

- 9:00～ 受付・案内(創立330記念交流会館)
- 10:00～10:45 歓迎式典(創立330記念交流会館)
- 10:45～11:00 休憩
- 11:00～12:00 特別講演(創立330記念交流会館)
演 題 「数学教育でどんな人を育てるか」
講演者 添田佳伸(教育文化学部長・教育文化学部数学教育学教授)
- 12:30～14:20 懇親会(大学会館) ※酒類の提供はできませんのでご了承ください。
- 14:30～16:00 キャンパス自由見学(各学部の企画)

創立330記念交流会館



建物外観(東側立面)図



講演者のプロフィール

添田 佳 伸 氏



昭和60年広島大学教育学部を卒業し、同大学院教育学研究科(博士課程前期)を修了後、広島大学助手を経て昭和63年宮崎大学教育学部助手として採用。平成22年附属教育実践総合センター長を経て平成25年10月より教育文化学部長に就任。

専門は数学教育学。数学的表記の研究に端を発し、数学的コミュニケーション、数学的レトリックの研究等を行っている。平成24年より、宮崎県数学教育会会長を務めている。

【講演内容】

小学校の算数、中学校・高等学校の数学の授業を通して、どのような人を育てようとしているのか。学校教育において算数・数学の果たしている役割は一体何か。これは、数学教育学の根本問題である。この問題に答えようすると、必然的に学力問題とぶつかることになる。つまり、学力とは何かということと関係してくるということである。数学教育における学力論の一端を紹介する。

フェスタ
国立大学2014

宮崎大学・宮崎大学同窓会連合会 共催

宮崎大学
UNIVERSITY OF MIYAZAKI